

2016年10月吉日

報道関係者各位

株式会社 PIJIN / NPO 法人 神戸ライトハウス

**多言語ソリューションの QR Translator が新たなユニバーサル対応
-目の不自由な方に情報を届ける機能を障害者支援団体と連携して開発-**

多言語コンテンツが簡単に作成・更新管理できるソリューション「QR Translator」を開発・運営する株式会社 PIJIN は、障害者支援の NPO 法人である神戸ライトハウスと協力して、視覚障害のある方々にもより多くの情報を届けられる機能を新たに開発しました。

QR Translator は、サイト上で入力した文章を自動的に多言語に変換し、発行された URL 情報にアクセスすると、情報を音声でも出力できる機能を有しています。今回、新たに開発した機能では、視覚障害のある方々が、その URL にアクセスするだけで、サーバーが利用端末の言語設定を自動的に認識し、その利用者に応じた言語で音声情報を返すことが出来るようになりました。

実際に、視覚障害のある方々が特定の URL にアクセスするには、QR コードの 4 角に点字のようなドットをつける事で、コードの位置と大きさが特定でき、視覚に障害があっても、手持ちの携帯端末でそれを読み取ることが可能です。例えば、名刺に QR Translator のコードをつけ、その 4 角にドットを入れれば、そのコードを読み取ることで、その人や会社の情報を、いつでも音声で読み出せるようになります。

また、施設に設置する看板などでは、NFC やビーコンを利用して URL にアクセスすれば、より簡易な方法で同じ情報を音声によって受け取れます。

WHO よると、世界全体の視覚障害者数は約 2 億 8500 万人（全人口の約 4%）と推計されており、2020 年には、海外からも同じ障害を持つ方々が多く来日することになります。但し、現在の点字案内は、日本語のみにしか対応しておらず、更に日本人の視覚障害者でも、点字を読める人の割合は同障害を持つ人の 10 人に 1 人に過ぎないと言われています。

QR Translator の機能を利用すると、普段、日本語を使う人には日本語で、英語を使う人には英語で音声情報を届けられます。また、情報を届けたい側の人や施設も、サイト上でテキストを入力するだけでそれが可能になる他、緊急時には、そのコンテンツを簡単に差し替える事も可能です。

PIJIN では、今後は QR コードだけでなく、NFC やビーコンなども利用して、その場所と受手に応じた情報伝達のユニバーサル対応を進めて参ります。また、神戸ライトハウスでは、視覚障害者が健常者と等しく情報共有できる環境づくりを目指して、印刷物の作成や Web サイトでの音声案内のビジネス連携など、様々な可能性を探求して参ります。

【QR Translator について】

看板や印刷物を簡単に多言語化できる画期的なソリューションとして、京都の伏見稲荷をはじめとした日本の主要な観光地、サンシャイン水族館、関西国際空港、セブン-イレブン、大手メーカーの自動販売機、各自治体、各種製品のパッケージなどで利用されています。QR Translator の仕組みは、オンラインとオフラインをつないで表示物を多言語化する世界初の手法として、日本と米国で特許も取得しています。

【NPO 法人神戸ライトハウスについて】

障害者の自立支援を目的として、マッサージ事業、IT 事業などを運営しています。それぞれの事業では、障害者の職業訓練を通じて、社会との関係性を維持しながら、各人の個性を活かした真の自立促進を目指しています。

【株式会社 PIJIN について】

「IT の力で世界を言語バリアフリーにする」を企業理念に、Web とローカライゼーションの分野を専門に QR Translator を開発・運営しています。

参考イメージ図：



本プレスリリースのお問い合わせ先：

株式会社 PIJIN 大阪支社
住所:大阪市中央区淡路町 2-6-9
電話: 06-6210-2398 (担当: 富山)
E メール: inquiry@qrtranslator.com
<http://www.qrtranslator.com>

NPO 法人 神戸ライトハウス
住所: 神戸市中央区旭通 5 丁目 3-4
電話: 078-251-6767 (担当: 和田)
E メール: support@kobelighthouse.com
<http://kobelighthouse.com>